



今年の梅雨は短期集中型



今年の梅雨は、7月の三連休に合わせたかのように、一気に梅雨明け。梅雨の期間は平年より短めだったものの、雨の量は西日本を中心に多く、各地で集中豪雨に見舞われました。今年の梅雨を特徴づけたのは、いつもの年と違った太平洋高気圧の張り出し方です。今回の最終号は、今年の梅雨のまとめや特徴、第1回目に発表した予想からの誤差などについて解説します。

梅雨期間短くても、西日本中心に大雨に

今年の梅雨期間と降水量

	5月	6月	7月	8月
東北北部	凡例 平年 (1971-2000年平均) 2010年	6/12 頃 6/16 梅雨入り	7/18 梅雨明け	7/27 頃
東北南部		6/10 頃 6/14 梅雨入り	7/23 頃 7/18 梅雨明け	
北陸		6/10 頃 6/13 梅雨入り	7/22 頃 7/17 梅雨明け	
関東甲信		6/8 頃 6/14 梅雨入り	7/20 頃 7/17 梅雨明け	
東海		6/8 頃 6/13 梅雨入り	7/20 頃 7/17 梅雨明け	
近畿		6/6 頃 6/13 梅雨入り	7/19 頃 7/17 梅雨明け	
中国		6/6 頃 6/13 梅雨入り	7/20 頃 7/17 梅雨明け	
四国		6/4 頃 6/13 梅雨入り	7/17 頃 7/17 梅雨明け	
九州北部		6/5 頃 6/12 梅雨入り	7/18 頃 7/17 梅雨明け	
九州南部		5/29 頃 6/12 梅雨入り	7/13 頃 7/20 梅雨明け	
奄美	5/10 頃 5/6 梅雨入り	6/28 頃	7/15 梅雨明け	
沖縄	5/8 頃 5/6 梅雨入り	6/23 頃 6/19 梅雨明け		

今年の梅雨は、梅雨入りが平年より遅い所がほとんどだったものの、梅雨明けは平年より早めだった所が多く、梅雨の期間としては短かめ。

ただ、梅雨入り後すぐに梅雨前線が活発になったため、梅雨の期間に降った雨の量は(主な地点)、平年に比べると西日本や南西諸島ほど多くなりました。特に、梅雨の中盤は梅雨前線が本州の南岸に停滞し、南西から湿った空気が流れ込みやすかったことから、九州南部では記録的な大雨に。鹿児島島の梅雨期間降水量は、梅雨水瓶マップの中の地点では、唯一1000ミリを超え、平年の160%に達し、統計史上5番目の多さとなりました。

また、梅雨末期は東海から西日本の各地で、集中豪雨が多発しました。

一方で、東日本(東海をのぞく)や東北は、梅雨前線の影響をあまり受けなかったものの、上空に寒気が流れ込んだり、低気圧が通過したりしたことによって、局地的な雨や雷雨が多発しました。青森では雨量が平年より多く、福島県の郡山では数日連続で豪雨が発生。東京都心の北部では1時間に100ミリを超える猛烈な雨が降りました。ところが、こうした大雨は局地的で、仙台や東京の観測ポイントは、平年より雨量が少なくなりました。

今年の梅雨は、短期集中型で、雨が局地的に集中した梅雨だったと言えます。

梅雨水瓶マップ

梅雨入りから2010年7月19日まで



梅雨を特徴づけた太平洋高気圧の張り出し

今年の梅雨の典型パターン



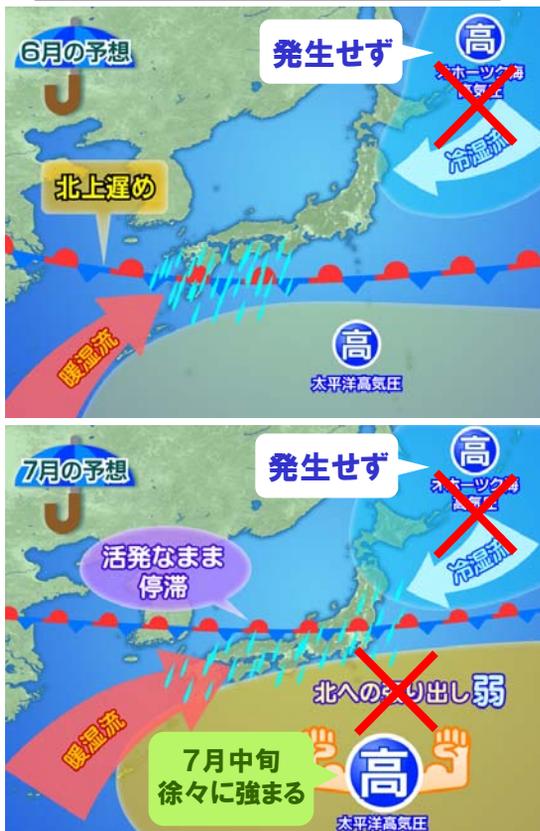
今年の梅雨を特徴づけたのは、いつもの年と違った太平洋高気圧の張り出しです。今年の太平洋高気圧は、北への張り出しが弱かったため、梅雨前線の停滞は西日本が中心で、北日本や東日本の上空には、寒気が流れ込みやすくなりました。

一方で、太平洋高気圧の西への張り出しは例年よりも強く、西日本を中心に、暖かく湿った空気が流れ込みやすかったため、梅雨前線の活動は活発な状態が続きました。

7月中旬頃からは太平洋高気圧の北への張り出しが徐々に強まり、梅雨前線が北上。7月15日から18日にかけては、各地で梅雨明けラッシュになり、三連休は東北から九州にかけて、夏本番の暑さになりました。

LBWの梅雨予想の振り返り

LBWの梅雨予想



ライフビジネスウェザーの梅雨予想と実際の結果を比較すると、梅雨前半から梅雨前線の活動が活発なことや、西日本中心の集中豪雨の多発は、ほぼ一致しましたが、奄美をのぞいて梅雨明けが平年より早かったことや、北日本でも高温になっていることに関しては、予想と異なる結果となりました。

その要因として、①北日本太平洋側を中心に低温をもたらすオホーツク海高気圧が発達しなかったこと②太平洋高気圧の北への張り出しが7月中旬から予想以上に強まったこと、などが挙げられます。

まず①のオホーツク海高気圧は、一時的に発生したことはありましたが、太平洋高気圧と張り合うほどの勢力はありませんでした。このため、気温は、北日本も含め全国的に平年より高くなりました。

また②の太平洋高気圧の北への張り出しが強まった主な原因は、高気圧の周期的な強まりに加え、現在ラニーニャ現象が発生しかけており、その特徴として、インドネシア付近の海面水温が上昇したことが挙げられます。

8月も主役は太平洋高気圧！？

8月の予想



梅雨明け後、太平洋高気圧の北への張り出しはややパワーダウンしています。このため、北海道や東北北部は、梅雨明け10日の安定した夏空とはいかず、ぐずついた天気の日が多くなっています。北海道では、日照不足が続いていて、記録的な大雨となった所もありました。一方、太平洋高気圧の西への張り出しは引き続き強いことから、東・西日本は、強い日差しの照りつける日が続き、各地で記録的な猛暑になっています。

8月に入ってもこの傾向は続きそうです。オホーツク海高気圧の発達はず、全国的に気温が高いくでしょう。東日本、西日本、沖縄・奄美は、太平洋高気圧に覆われるため、夏空の広がる日が多く、お盆休みの頃まで猛暑が続くでしょう。暑さは9月になっても、落ち着く気配は無く、各地で厳しい残暑となる予想です。北日本では、低気圧や前線、寒気の影響を受けやすくなりそう。このため、平年よりくもりや雨の日が多くなり、雨の量も平年並か平年より多くなりそうです。

8月・9月の長期予報

地域	8月		9月	
	気温	降水量	気温	降水量
沖縄・奄美	高	並	高	並or多
西日本	高	並or少	高	並
東日本	高	並or少	高	並
北日本	高	並or多	高	並or多

※ 気象庁の3か月予報をもとに作成

2010年梅雨ズバリ解説は、この回を持ちまして終了します。号外も含め、全9回発表致しました。最後まで読んでいただきありがとうございました。来年は、今年の予想結果の反省を踏まえ、より精度が高く、わかりやすい季節予報の提供に向けて邁進してまいります。

お問い合わせ先

株式会社ライフビジネスウェザー
 営業部 (リリースについて) TEL:03-3668-6142 E-Mail:ishii-n@lbw.jp
 気象予報部 (予想について) TEL:03-3668-6143 FAX03-3668-6145
 画像をご使用の際はコピーライト表記
 ©Life & Business Weather Inc.

